神戸の子ども居場所フォーラム
～子どもが外遊びできる協働の居場所づくり～
意見書

2024年6月 20 日

目次

1. はじめに

2. 子どもを取り巻く環境と現状の課題

3. 子どもが外遊びできる協働の居場所づくりへ向けた意見

意見1　子どもの日常に外遊びの時間を確保する

意見2　子どもが歩いて行ける圏内に外遊びの場所を確保する

意見3　子どもの外遊びに関わり起動する人を集める・育てる・増やす

意見4　外遊びで子どもの日常をワクワクさせるまちをつくる

＜参考＞フォーラムの概要

4. おわりに

１．はじめに

子どもが外で遊ぶことによって得られるものは多い。例えば、怪我などの危険を経験することで危険を予知できるようになったり、傾斜を上り下りすることで体幹が鍛えられたり、遊び方を考えることで創造力が育まれるなど、様々な効果がある。しかし、子どもたちの置かれている環境の変化とともに保護者の意識、意向も変わり、危険から子どもたちを守るために、外で自由に遊ばせないようになった。

体幹が十分に鍛えられず姿勢が崩れる子どもが増えており、体力低下などの社会問題にも繋がっている。また、遊びやすく作られた道具がふんだんに与えられ、自ら工夫して遊ぶことが少なくなり、創造力を培う機会が失われているといった課題も顕在化しつつある。

自然の中で、思い切り全身を使って駆け回り、自然物を工夫して遊びを自ら生み出していく経験は、子どもの成長に欠かせないものである。また、子どものうちに危険への対処の経験を積み、危険を察知、回避する力を育てることも非常に重要である。

こうした状況を踏まえ、神戸の未来を担う子どもたちの心身ともに健康な成長を促進するため、専門家や地域団体、行政も含めた関係者が集まり、自然の中でのびのびと外遊びができる安心・安全な居場所づくりについて話し合った。全３回のフォーラムでは、家庭、学校、行政、地域、企業、大学など多くの関係団体に協力してもらうためにはどうすればよいか、またそれぞれが期待されている役割は何か、どうすれば効果的に連携できるか、といった内容を検討し、神戸市への意見をまとめた。

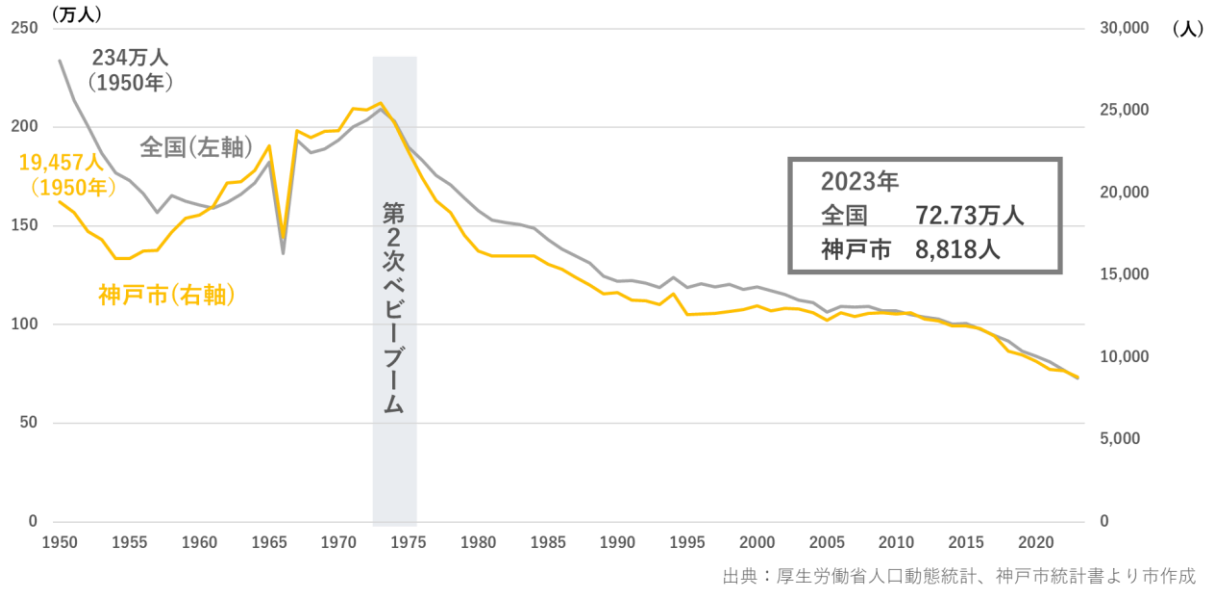
神戸は海と山に囲まれ、数多くの公園や神社・お寺の境内等、緑豊かな場所にも恵まれており、子どもが遊ぶにはこの上ない環境をそなえた街である。ぜひ、神戸市には意見書の内容を具体的な施策に繋げ、子どもたちが楽しそうに遊ぶ風景が日常であるよう、取り組んでいただきたい。

２．子どもを取り巻く環境と現状の課題

（１）子どもを取り巻く環境

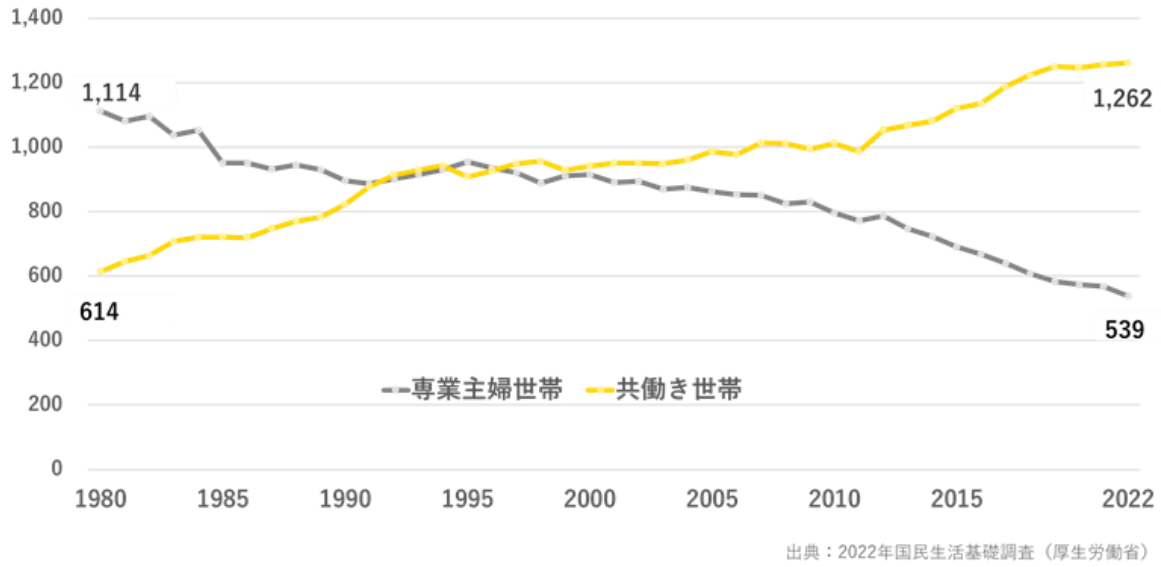
進む少子化により、令和４年に全国の出生数は初めて 80 万人を割ることとなった。神戸市においても、近年１万人強で推移していた出生数が令和２年に１万人を切り、2022 年は 9, 196 人とさらに厳しい状況となっている。

【出生数の推移】

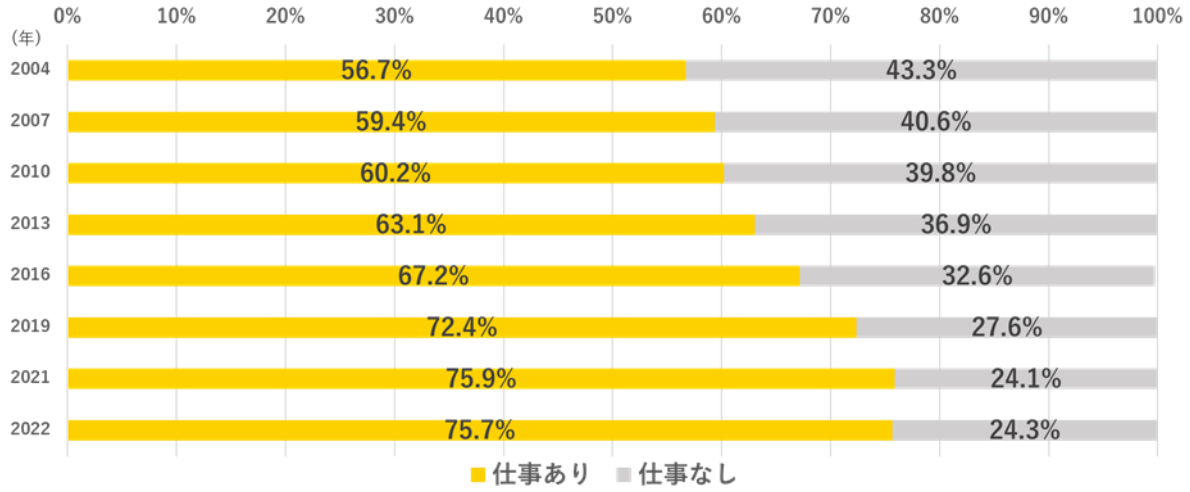


一方で、共働き世帯は増加し、全体の約７割を占めている状況である。伴って児童のいる世帯における母の就労割合は 75%を超えており、両親が働きながら子育てすることが出来る環境づくりがより一層求められている。

【共働き世帯の推移】



【児童のいる世帯における母の就労状況】

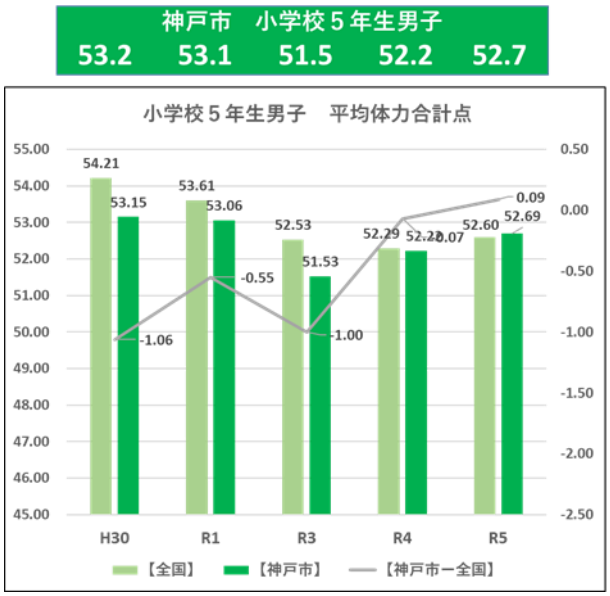


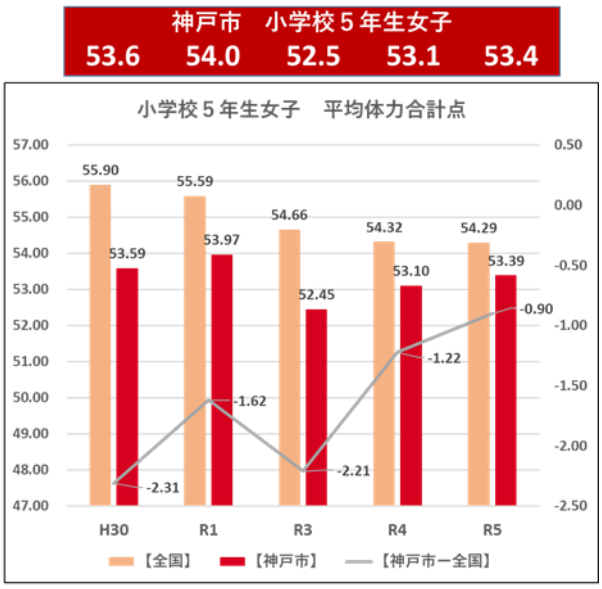
出典：2022年国民生活基礎調査（厚生労働省）

（２）現状の課題

スポーツ庁が行っている「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果では、小学校５年生を対象とした「体力合計点（ソフトボール投げ・反復横跳び等）」では減少傾向であり、「スクリーンタイム（平日にテレビやDVD、ゲーム機、スマートフォン、パソコンなどの画面を見ている時間が３時間以上と回答した割合）」は増加傾向である。

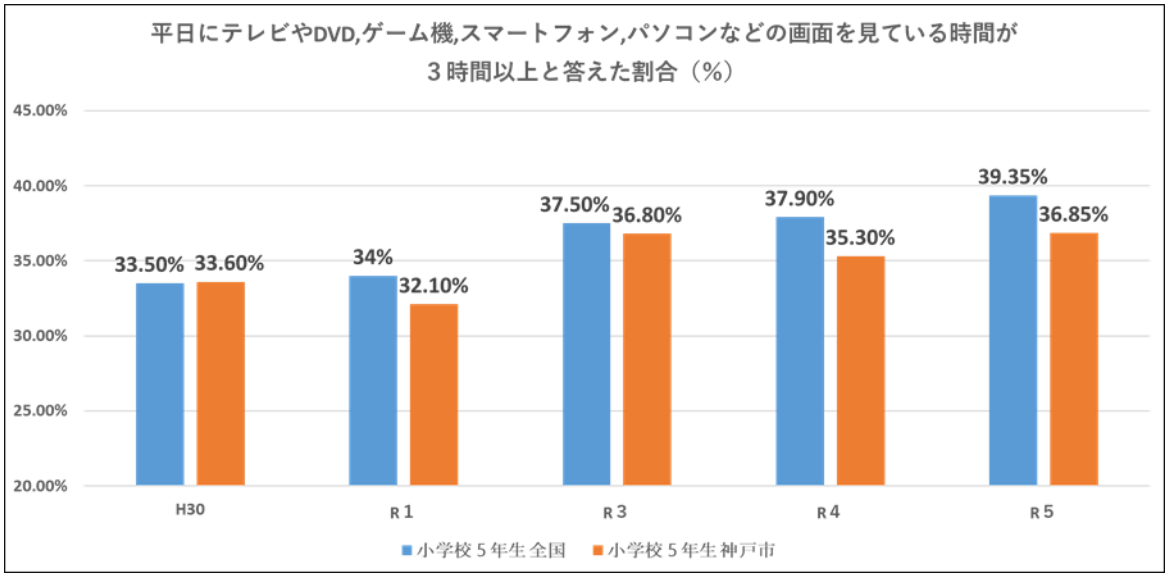
【体力合計点（小学校５年生）】





スポーツ庁「全国体力・運動能力、運動習慣等 調査結果」より市作成

【スクリーンタイム（小学校５年生）】



スポーツ庁「全国体力・運動能力、運動習慣等 調査結果」より市作成

フォーラムの中では、①子どもを取り巻く環境の変化に伴う課題②大人自身の環境等の変化に伴う課題③遊ぶ場所の環境等の変化に伴う課題③外遊びの場所等の課題④子どもの成長のために必要なことについて、以下の意見が見られた。

① 子どもを取り巻く環境等の変化に伴う課題

・体幹が鍛えられておらず、姿勢が崩れやすい。体力がない。

・遊ぶ環境が整備され過ぎて、遊び道具も遊びやすいものに変化し、子どもの遊びに工夫がなくなった。

・褒めて親が子どもを動かそうとし、学校の中での評価により、親や周りから褒められたい子どもが増えた。

・経験不足から、上手くいかないことが怖いため、チャレンジしない傾向がある。

・放課後は習い事等で忙しく、遊ぶ時間がない。

② 大人自身の環境等の変化に伴う課題

・大人が忙しいあまり、子どもが大きくなってもベビーカーに乗せて運ぶ対象になった。

・保護者世代の大人自身が遊び方を知らない。

・親が子どもといる時でもスマホを見ており、一緒に遊ばない、見守らない。

・子どもを危険なことから遠ざける傾向が強くなった。

③ 外遊びの場所等の課題

・自由に遊べる場所が少ない、公園の遊具で小学生はほぼ遊ばない等、子どもが主体的に遊べる場所がない。

・ボール遊びができない等、公園は禁止事項が多い。

・親としては「放課後に学校で遊んでいる」と聞くと、すごく安心感があるので、まず校庭で遊ぶのを充実させてほしい。

④ 子どもの成長のために必要なこと

・斜面やでこぼこのある自然の中で全身を使って体幹を育てていくこと。

・退屈を楽しむ機会を与えて創造力を養うこと。
・本当に危険なものに触れることで、危険を感知する能力が育つこと。
・本物に触れて実体験させること。
・上手くいかない経験から成長を引き出すこと。

３．子どもが外遊びできる協働の居場所づくりへ向けた意見

上記の状況を踏まえ、子どもが安心して外遊びができる環境を整えるため、以下の４点を意見とする。

意見１．子どもの日常に外遊びの時間を確保する

（１）たっぷりと遊べる時間を確保

放課後等に細切れではなくまとまって遊べる時間をしっかり確保する。

（２）家庭等への意識啓発

外遊びの重要性を広く知らせることで、家庭でも子どもが自由に遊べる時間をつくるよう意識を高める。

意見２．子どもが歩いて行ける圏内に外遊びの場所を確保する

（１）子どもが歩いて行ける圏内に外遊びの場所を確保する

・徒歩圏内にある色々な空間（校庭、公園、寺社の境内等）を外遊びの場として活用する。特に、保護者にも安心感のある校庭は積極的に活用する。

・行政や地域等が連携して、子どもや保護者が安心して遊べる場を増やす。

（２）自然を活かした外遊びを推進する

・神戸の特色である豊かな自然を活かした森のようちえんや冒険遊び場等の活動を広める。

（３）子どもの主体性を育む場づくり

・子どもたち自身が「遊びのルール」を考えるなど、子どもの意見を取り入れながら進める。

・子どもの「やってみたい！」を実現する場として、大人は見守る。

意見３．子どもの外遊びに関わり起動する人を集める・育てる・増やす

（１）地域をはじめ、様々な協力者を巻き込む

・学校や児童館だけでなく、地域やＮＰＯ、大学、高校等様々な協力者が連携し、子どもの外遊びを積極的に進める。

・遊び場づくりに取り組む人・団体を支援する体制や仕組みをつくる（ノウハウの伝承、資金面の支援等）。

・専門家（プレーリーダー等）を育成する。

・取組事例などの情報を積極的に発信し、協力者を増やす。

意見４．外遊びで子どもの日常をワクワクさせるまちをつくる

（１）子どもの外で遊ぶ姿が神戸の風景になる

「すべての子どもが安心して自由に外で遊べるまち」をめざし、まちづくりの方針や施策を策定する。

（２）「子どもの意見聴取と政策への反映」を大切にする

・子どもの「やってみたい！」や、ワクワク・ドキドキ感を大切にし、子どもの主体性や創造力を伸ばす。

・外遊びの場づくりには子どもの意見を取り入れる。

＜参考＞フォーラムの概要

フォーラムの開催経過

回数	開催日	議題
第１回	**2023 年 12 月 28 日**	**・子どもの居場所・体力低下の現状** **・外遊びの安全な居場所とは**
第２回	**2024 年２月１日**	**・外遊びの安全な居場所づくり** **・学校、行政、地域、NPO などの役割・連携** **・神戸市への意見の検討**
第３回	**2024 年３月 24 日**	**・外遊びの実践団体の事例紹介** **・外遊びの安全な居場所の意見交換及び外遊び体験（市民参加予定だったが雨天のため中止）**

フォーラム構成メンバー

所属名	出席者	
神戸女子大学家政学部家政学科	教授	梶木（かじき） 典子（のりこ）（座長）
特定非営利活動法人 S-pace	理事長	越智（おち） 正篤（まさあつ）
一般社団法人 森のようちえんすまっこのもり	代表理事	澤井（さわい） 一紗（かずさ）
カミカ茶寮＋読林		豊永（とよなが） 祐子（ゆうこ）
全国まちなか広場研究会	理事	山下（やました） 裕子（ゆうこ）
神戸市こども家庭局	副局長	丸山（まるやま） 佳子（よしこ）
神戸市教育委員会事務局	教育次長	芝田（しばた） 悦司（えつし）

４．おわりに

2023 年 12 月末から 3 回にわたり開催された神戸の子ども居場所フォーラム。はじめにこのフォーラムの話を聞いたとき、ようやく神戸市が外遊びに本気で目を向け始めるのかと嬉しく思い、ワクワクしました。本フォーラムでは、立場の異なる委員が集まり「まずは理想を大いに語りましょう！」と始まり、子どもの育ちにおける外遊びの大切さについて、大変示唆に富む意見が活発に出されました。

本フォーラムで一貫して大切にしてきたことは「子どもの主体性」です。

外で遊ぶことは子どもにとって不可欠なものです。子どもが「主体的に自由に遊べる」こともとても大切です。子どもの遊びのはじまりは、「やりたい！」「やってみたい！」という子ども自身の内側から湧いてくる気持ちです。つまり、遊ぶことそのものが目的なのです。子どもは、子ども時代に、自然環境のなかで五感を研ぎ澄ましてたっぷり遊び、いろいろなことに興味を持ち、人と関わり、自分のやり方や自分の時間の流れのなかで、創意工夫をして、挑戦し、失敗し、それらを自分の力で乗り越えて成長していきます。このプロセスが自律した大人へと成長するために必要なことなのです。

子どもは未来を担う社会の宝です。その子どもたちに今必要なことは、子どもが子ども時代を子どもとして生きること、子どもが子どもとして存在することのできる場所です。子どもたちが自分の頭で考え、自分自身で新たな価値を発見し、育み、子ども時代の外遊びのなかでしか体験できない「ワクワク・ドキドキ」した気持ちや、「やった！できた！」という達成感を持つことができるように、大人は環境を整え、支援していかねばなりません。そして子どもと子ども、子どもと大人、さらには子どもと社会がつながるコミュニティ力を広げていくことが大切です。難しく考えるのではなく、子どもの頃の外遊びを思い出してください。野原や山で遊んで楽しかったこと、嬉しかったこと、ワクワクしたこと、ドキドキしたこと、悔しかったこと等々、時間が経つのも忘れて夢中になって遊んだ様々なシーンが浮かんできませんか？光、匂い、音、感触など五感を総動員して夢中になって遊んだ懐かしい記憶が蘇るのではないでしょうか。夢中で遊ぶ子どもの顔は、今も昔も変わりません。

ちょうど本フォーラムの第 3 回が公開開催された 3 月 24 日、国連総会で毎年 6 月 11 日が「国際遊びの日（International Day of Play）」に制定されました。世界中で「子どもが遊ぶことの大切さ」を普及していこうという動きが始まっています。神戸のまちも、子どもの遊びがあふれ、子どもも大人も居心地がよく、遊びたくなるような、おしゃべりしたくなるような場所をつくり、みんなの笑顔があふれるまちをめざす人が一人でも増えて欲しいと願います。子どもたちが明るい未来を描きながら、幸せで豊かな人生を送るために。

2024 年 6 月 20 日

神戸の子ども居場所フォーラム
座長　梶木典子